



# 地域協働だより

## ご挨拶



校長 田中 篤

本年4月より校長として赴任いたしました田中と申します。私は前任校が本校の前身である大矢野高校で、再びこの地で約25年ぶりに勤務することとなりました。また、当時担任などで関わり現在本校の保護者という方が何人もおられ、本校と縁浅からぬものを感じております。

さて、新型コロナウイルスの脅威は依然として私たちの身近にあり、学校でも感染拡大防止対策を講じながら何とか教育活動を行っています。先が見通せず手探りの状態ですが、こうした状況だからこそ、人と人のつながりの大切さが一際強く感じられます。4月当初から、地域の方々や前述の保護者の方々と接する機会を得て、励ましたれ勇気付けられました。こうした地域の支えは、学校運営の大きな原動力です。不安な時代だからこそ、家族や地域といった身近な関係性を確かめたいと考え、教育活動を進めて参りたいと考えています。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」も、身近な地域の支えがあつて成立する教育活動であり、本事業も2年目です。この成果を全国に発信していくことを目指し取組をさらに深化させていかなければならないと考えています。今後ともどうぞ皆様からの御支援御協力をお願い申し上げます。



カリキュラム  
開発等専門家  
元田 有祈

令和元年度より、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」におけるカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を務めさせていただきます。元田有祈と申します。

まずは、今回の新型コロナウイルス感染症及びその対策としての営業自粛等により、影響を受けられた方々や、エッセンシャルワーカーの方々に対しお見舞いと感謝を心より申し上げます。

世界でも未曾有の事態となったこのコロナ禍において、本校でも様々な影響がありながらも学校を再開することができました。この事態においても自ら学びを続ける興味関心の醸成とともに、探究の重要性を改めて感じたものです。私自身この上天草に住み始めて4年目を迎えました。この美しい自然と文化、人に囲まれた宝の島をよりよい未来に導くのは本校の生徒たちであつてほしいと思つています。そのリーダーとなる人材をより力強く育てていくためにも昨年度に引き続き本年度も保護者の皆様をはじめ、地域の各種団体の方々に対し生徒の探究活動等に協力をお願いする事がございました。また、上天草高校生の目指す人材像への到達に向け御協力いたします。

文部科学省では、高等学校等において、各教科等の内容を社会の在り方等と結び付けて深く理解する等、地域の課題を基に体験と実践を伴った探究的な学びを実現するため、昨年度からこの事業が開始されました。

地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知り、コミュニティを支える人材を育成するため、地域課題の解決に向けた探究的な学びを、各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間等の中で実施したり、それらを相互に関連させ、教科等横断的な学習を実現したりすることにより、カリキュラムの中に体系的・系統的に位置付けるなどのカリキュラム開発等を行っていきます。

市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う高等学校を指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践、体制整備を進めます。

地域との協働による  
高等学校教育改革推進事業



市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムが昨年度発足しました。本年度も未来の上天草市を支え、創造する生徒たちの力強い応援団として本事業を推進していきます。

# 地域との協働による教育改革

本校は、令和元年度文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」として、多くの応募の中で、全国20校に選ばれています。指定（事業）期間は3年間。本年は2年目となり、今回はその取組みについてご紹介いたします。

## 地域との協働のねらい

地域との協働による高等学校教育改革推進事業は、生徒たちが生き抜く新たな世界において、いかに生徒たちがその世界で自らの能力を発揮して強く生きていけるかを高等学校教育のカリキュラムの中で支援する事業だと考えています。

先端技術により産業も変化し、IoTやAIの技術の発展はめざましいものがあります。

ある研究によると、近い将来90%の職がAIに置き換えられ、15年後には今ある職の49%がなくなるともいわれています。そのような世界を生き抜く生徒に自らがAIや最新の技術をどのように活かすことができるかを考え行動できる人材の育成に取組みます。

## カリキュラムの開発

これまでの教育課程編成は、「単位数、授業時数」等が中心に考えられ、「何を、何時間で教えるか」という視点で教育課程が編成されがちでした。

国の教育課程審議会答申においても、「何をどれだけ学ぶか」ばかりでなく、「生きる力」につながる「学び」の再確立が求められている中で、「自ら学び、自ら考える力を育成すること」「各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」等が教育課程の改善の方針とされています。

## 上天草プロジェクト

上天草プロジェクトは、「総合的な探究の時間」の代替科目として「上天草プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「地域起業研究」

「地域イノベーション研究」を学校設定科目として取り組んでいます。生徒たちは、これらの科目の探究的な学びを通じて、

(1) 上天草をより深く理解し、誇りに思い、愛する人材

(2) 新しい上天草創造のために思考・行動・表現し、支える人材

(3) 上天草と自らの夢の実現のため学び続け、夢を追い続ける心豊かな人材

となるよう3つの目標に向かってカリキュラムの開発を推進していきます。

1年生では、地域理解講座で上天草市の現状や産業構造や観光を学び、先進出前講座では、各種団体や企業経営者などを招き授業を行う予定です。また昨年1年生全員が応募し、学校賞を受賞した「ビジネスプラングランプリ」に向けてビジネスプランの作り方やビジネスアイデアを考えるヒントなどを学びながら創りあげていきます。

2年生では、昨年からの取組みをより一層ブラッシュアップさせ、地域とつながれるよう、積極的に学校外へ出て行けるような活動を行います。1年生とともにビジネスプラングランプリや他のコンテストにも積極的に応募し、自らの考えを表現する力を身につけていきます。

## 大学進学と上天草プロジェクト

本年度より大学入試改革が行われます。この入試改革では、社会が求める人材像の変化に対応するものであり、知識・技能だけでなく、思考・判断・表現力を重視したものと変わってきます。**生徒が自らの課題を見出し周囲と協力して解決する力が求められる**ようになります。

上天草プロジェクトでは、3年間を通して、自らの地域を学びの素材として、地域の課題解決能力の向上を図っていきます。



## いろんなアイデアを募集しています

学校でこんなことをやってみたい。こんな活動をしてみたいというアイデア募集しています。職員室の元田またはメールで送ってください。感想や質問もぜひ送ってください。

motoda-y@mail.bears.ed.jp

## 編集後記

コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等が終わり、生徒の元気な姿を学校で見ることができました。昨年度は新入生も高校に慣れている頃かと思いますが、2ヶ月近い休校や分散登校で、やっと登校できたという想いが強いように感じました。